

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	統合分野	授業科目	臨床実務基礎 I
担当者 資格・役職等	看護師 副学校長(臨床経験22年)	履修年次 及び学期	3年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 看護活動を効果的、効率的、創造的に行うために必要な基本的な知識を習得し、看護ケアを提供しているすべての看護職に求められる役割としての看護管理について学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 看護管理とは看護管理者だけが行うものではなく、学生を含めすべての看護職が必要な機能である。看護活動を効果的、効率的、創造的に行うために他職種と連携し、チーム医療を進めるなど看護管理の視点から問題解決を要する事例等を提示し、看護管理に必要な知識や考え方・方法論を修得していく。</p>		
授業計画	<p>第1回 看護とマネジメント 看護管理とは 問題解決を要する看護管理上の事例の提示(講義、グループワーク)</p> <p>第2回 看護ケアのマネジメント 1) チーム医療 2) 日常業務のマネジメント 看護サービスのマネジメント 1) 看護サービス管理 2) サービスの質</p> <p>第3回 病院における看護管理の実際 その1(長野市民病院 看護部)</p> <p>第4回 病院における看護管理の実際 その2(長野市民病院 看護部)</p> <p>第5回 看護サービスのマネジメント 続き 3) 看護ケア提供システム(人的資源管理) 4) 労務管理</p> <p>第6回 看護サービスのマネジメント 続き 5) 物的資源管理 等 看護を取り巻く諸制度</p> <p>第7回 マネジメントに必要な知識と技術 1) 組織とマネジメント 2) リーダーシップとマネジメント</p> <p>第8回 筆記試験 課題レポート</p>		
教科書	看護管理(メディカ出版) / 基礎看護学 看護学概論(メディカ出版) / 看護覚え書(現代社)		
参考書	看護マネジメント論(日本看護協会) 看護における人的資源活用論(日本看護協会)		
評価の方法	筆記試験・事前課題レポート・GWなどの授業参加度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	実習病院副看護部長及び看護師として管理職の経験を持つ副学校長が臨床実務基礎(マネジメント)について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	統合分野	授業科目	臨床実務基礎Ⅱ
担当者 資格・役職等	看護師（5名） 専任教員（臨床経験14年） 専任教員（臨床経験10年）	履修年次 及び学期	3年次前期～後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 医療活動の場が拡大している今日、既習の学習内容を様々な場や状況、文化、環境の中で活用、統合するために災害看護・感染看護・国際看護・救急看護を取り上げ、看護職の多様な実践活動を学ぶ。また、医療事故防止のために、安全な医療の提供は不可欠であるため、医療安全教育に基づいた知識を養う。</p> <p><b>【概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外に頻発する災害を見据え、災害時における被災者の被害を最小限にするための看護職の役割と課題を学ぶ。</li> <li>・感染看護・医療安全を学ぶことで看護の対象となる人（患者）の安全を守るという思想を育むとともにその基礎知識を養う。</li> <li>・既習の学習内容を活かし救急という場や患者の状況を踏まえたうえで、救急医療を必要とする人の看護を学ぶ。</li> <li>・国際社会において諸外国との協力、協働を考えることができる基礎を学ぶ。</li> <li>・各学習内容に長けている講師をお呼びしオムニバスで本科目を構成する。</li> </ul>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要説明：既習知識と科目との関連や、近い将来臨床に向かう動機づけとしての科目の意義を伝える。</li> <li>2. 災害と看護：災害とは、災害現場の特徴、対象の特徴</li> <li>3. 災害と看護：災害医療と看護の基本、災害看護の実際</li> <li>4. 感染看護：感染症と法的措置、拡大対策</li> <li>5. 感染看護：患者の安全を守るための感染管理の実際</li> <li>6. 感染看護：患者の安全を守るための感染管理の実際</li> <li>7. 救急看護：救急看護とは、救急看護の特徴</li> <li>8. 救急看護：救急看護の実際（演習）</li> <li>9. 国際看護：国内における国際看護</li> <li>10. 国際看護：海外における国際看護</li> <li>11. 医療事故：専門職と法的責任、判例から</li> <li>12. 医療安全：専門職としての責務</li> <li>13. 医療安全：医療事故予防と看護の実際</li> <li>14/15. 課題</li> </ol>		
教科書	医療安全とリスクマネジメント、看護学概論、基礎看護技術		
参考書			
評価の方法	課題レポート 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師4名、認定看護師1名、看護師として病院や青年海外協力隊参加などの臨床経験を持つ専任教員2名が臨床実務基礎について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	統合分野	授業科目	臨床実務基礎Ⅲ
担当者 資格・役職等	専任教員 (臨床経験14年)	履修年次 及び学期	3年次 前期～後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 看護研究の意義を理解し、基礎的研究方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 実際に研究を進める上で必要な基礎知識を網羅するだけでなく、いかに実践にとって研究が大事なのか、実践にとって意義がある研究を行うためにはどうすれば良いのかを学ぶ。臨地実習において疑問や問題意識を持ち、テーマを決め看護研究を行い、自らの実践や思考を論理的にまとめ学内発表することで、基礎知識の総括を図る。</p> <p>看護研究は研究のための研究であってはならず、テーマは実践から生まれ、その結果は実践を良くする意味があることを理解し臨床での看護研究に対する意欲を持つ。</p>		
授業計画	<p>1. 看護における研究の役割 研究とは 看護における研究とは 看護研究における倫理的配慮</p> <p>2. 研究過程の概観</p> <p>3. 文献検討（検索） 文献検討（検索の意義）と方法 文献の読み方</p> <p>4. 概念枠組みと仮説</p> <p>5～6.研究デザイン 研究デザインの種類 実験研究 調査研究 事例研究／ケーススタディ</p> <p>7～11.看護研究の進め方 研究疑問の明確化・先行研究の検討 研究デザイン 概念枠組み・用語の定義 研究計画書の構成 データ収集の実施・データの分析. 結果の解釈</p> <p>12～15ケースレポートの実際</p>		
教科書	ナーシンググラフィカ 看護研究 メディカ出版		
参考書	分かりやすいケーススタディの進め方（照林社）		
評価の方法	筆記試験、論文評価 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院などの臨床経験を持つ専任教員が臨床実務基礎について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	統合分野	授業科目	臨床実務基礎IV-1
担当者 資格・役職等	専任教員 (臨床経験16年)	履修年次 及び学期	3年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 事例患者に必要な援助とフィジカルアセスメントの理解と患者に応じた援助の内容、統合した実践の基礎能力を培う。</p> <p>【概要】 基本的な看護技術を確実に習得するとともに、個々の看護技術を統合させて患者の状況や個別性に応じた安全で安楽な看護実践を行うための力を養う。演習を通して自己を振り返り、知識・技術・態度における課題を明確にし、臨床実務基礎IV-2と合わせ、段階的に看護実践力の向上をめざす。</p>		
授業計画	<p>第1回 卒業時に望まれる看護実践力とは 卒業時看護技術到達度について 科目全体のねらい (講義)</p> <p>第2回 注射法 (点滴静脈内注射・輸液ポンプの取り扱い) (演習)</p> <p>第3回 //</p> <p>第4回 事例患者に応じた看護の実践 -1- (演習)</p> <p>第5回 //</p> <p>第6回 事例患者に応じた看護の実践 -2- (演習)</p> <p>第7回 //</p> <p>第8回 筆記試験</p>		
教科書	なし		
参考書	基礎看護技術Ⅱ メジカルフレンド社 1・2年次に使用した教科書・資料 急性期の看護に関わるもの		
評価の方法	筆記試験 授業の参加度 演習記録の提出 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が臨床実務基礎について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	統合分野	授業科目	臨床実務基礎IV-2
担当者 資格・役職等	専任教員 (臨床経験12年)	履修年次 及び学期	3年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>これまでの学習を統合し、その場の状況と対象の状態に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。</p> <p>【概要】</p> <p>基礎看護技術の評価を通して、看護実践能力を振り返り、自己の課題を明らかにし臨床実務基礎実習に臨む。実習に向けて複数の患者を受け持つ際の優先順位やチームの一員としての責任と役割について学ぶ。実習後、グループ演習とOSCEにより卒業に向けた自己の課題を明確にし、継続学習について考えられるようにしていく。</p>		
授業計画	<p>第1回 臨地実習の看護技術実施表を基に基礎看護技術の評価</p> <p>第2回 OSCE事例提示・グループ学習</p> <p>第3回 OSCE事例提示・グループ学習</p> <p>第4回～第11回 第2回3回をもとにグループ演習</p> <p>第12回 OSCE</p> <p>第13回 看護実践能力評価と課題確認</p> <p>第14回 複数患者の看護について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数患者受け持ちと看護過程の展開</li> <li>2. 複数患者受け持ち時の1日の看護計画立案 優先順位</li> <li>3. 報告・引き継ぎ</li> </ol> <p>第15回 複数受け持ち患者の事例展開 (グループ演習)</p> <p>まとめ</p>		
教科書	なし		
参考書	なし		
評価の方法	出席時間、グループ学習参加度、OSCE、課題提出により総合評価する 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が臨床実務基礎について教育する科目		